

【国語】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「聞く能力」については、意見の共通点を考えながら内容を聞く力、話し手の立場や意図を考えながら内容を聞く力をみる問題の正答率が80%を上回っており、力が身に付いている。他方、進め方や方向をとらえながら話し合いを聞く力をみる問題の正答率は60%を下回り、力が十分身に付いているとはいえない。

「書く能力」については、自分の考えをはっきりさせ具体例を示して分かりやすく書く力をみる問題の正答率が80%程度で、ほぼ力が身に付いている。

「読む能力」については、キーワードをとらえながら文章を読む力、全体の要旨をとらえながら文章を読む力をみる問題の正答率が90%程度で、力が身に付いている。他方、構成をとらえながら文章を読む力をみる問題の正答率は60%を下回り、力が十分身に付いているとはいえない。

「言語についての知識・理解・技能」については、学習した漢字を読む力、接続語や慣用的な表現を正しく使う力をみる問題の多くの正答率が90%を上回り、力が身に付いている。他方、漢字を書く力をみる一部の問題の正答率が60%を下回り、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 進め方や方向をとらえながら話し合いを聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

<問題> の三

司会者の司会の仕方について述べたものとして、最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

- ア 出された意見について評価し、優劣をつけて話し合いを深めようとしている。
- イ 最初に出された意見に対して、同じ立場や異なる立場から意見を發表させようとしている。
- ウ 話し合いを整理したり方向付けたりはせず、意見をどんどん發表させようとしている。
- エ 自分と同じ考え方の人の意見を優先して發表させ、自分の考え方が広まるようにしている。

<結果> 正答率 54.4% (正答...イ)

<分析>

他の「聞く能力」の問題に比べ正答率が低い。誤答で最も多いのはアである。「話し合いを深めようとしている」という選択肢の言葉のみを根拠にした結果であると思われる。音声問題を聞く時に、各発言者の内容を理解することに注意が向き、司会者がどのように話し合いを進めていたかということまで正確に聞き取ることができなかったと考えられる。

(2) 全体の要旨をとらえながら文章を読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> の四

この文章で述べられている中心的な事柄は何ですか。最も適切なものを、ア～エの中から選び、符号で書きなさい。

- ア 人間は成長するにつれて体の中の水の割合が高くなっていく。
- イ 人間を含む生命体は固体のように見えるがほとんど水できている。
- ウ 縁日にはゴム風船のヨーヨーが大きな水槽に浮かんでいる。
- エ 子供は小さな水たまりに生物が存在するのを不思議に思う。

<結果> 正答率 87.7% (正答...イ)

<分析>

「読む能力」の問題の中で、キーワードをとらえながら文章を読む力をみる問題とともに、高い正答率となっている。繰り返し述べられている事柄を手がかりにしたり、問題文中の後半に書かれている「生命体は...『液体』、『水』なのです。」「人間も『水の集まり』です。」などの表現に着目したりして、筆者が述べている考えをとらえることができていると考えられる。

(3) 自分の考えをはっきりさせること、またその考えをわかりやすくするために、具体例を挙げる力を見る問題の例(「書く能力」)

<問題> 四

次のA、B、Cそれぞれの欄には、語句が三つずつ示されています。

A、B、Cの三つのうちからどれか一つを選び、そこに示された三つの語句をすべて使い、具体的な事例を入れて、自分の考えをまとめなさい。ただし、同じ語句を何度使ってもよいし、語句を使う順番も自由です。なお、解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書きなさい。

A (クラブ活動	勉強の時間	計	画)
B (テレビ	読	書	生
C (ご	み	道	路
		かん	環
		き	境

<結果> 正答率 78.4%

<分析>

示された三つの語句を使用し、問題文に示された条件に合わせ、自分の考えを書くことができている。解答欄に記述した生徒は94%程度であり、自分なりに考えをまとめて表現しようとする意欲があることが分かる。誤答のほとんどが、具体的な事例のないもの、事実のみで自分の考えがないものなど、条件に合っていないものであった。その他、指定された語句が使っていないもの、字数に収まりきらなかったもの、文意の通じないものが若干みられた。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

・年間指導計画において、「話すこと・聞くこと」の指導事項「エ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。」、「読むこと」の指導事項「ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。」を扱う単元を確実に設定するとともに、単元の導入の仕方を工夫し、生徒にとって必然のある学習内容となるよう配慮する。

(2) 指導方法の工夫改善

・「話すこと・聞くこと」の授業においては、単に自分の考えを話したり相手の意見を聞いたりすることにとどまらず、話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり聞いたりできるようにする。そのために、話合いの途中でも必要に応じて「話合いの方向を確認する」「話合いの進め方を確認する」などの指導を行う。また、生徒に話合いや会議での司会を経験させることも大切である。

・「書くこと」の授業においては、生徒がもっている興味・関心、必要感を生かしながら、書く力を高める指導を大切にする。そのために、体験的・具体的な事実に基づいて自分の考えや感想を書く活動を位置付ける、日常生活で関心を抱いたこと・疑問に思ったこと等をメモする習慣を身に付けさせるなどの工夫をする。また、作品のモデルとなるメモや文章の提示を工夫することも大切である。

・「読むこと」の授業においては、文章の構成を正確にとらえる力を高める指導を大切にする。そのために、「話題の転換・具体と抽象・原因と結果・理由と結論」等の視点に基づいて段落の内容をとらえさせるなど、段落相互の関係を正しく理解させるための指導を工夫をする。また、形式的な構成の理解に終わらないように、生徒に必要感や目的意識をもたせる工夫も大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

・国語科の授業で身に付けさせた力を、他教科の授業、総合的な学習の時間、日常生活等でも発揮させ、定着を図るように配慮する。

・辞書類の使用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮できる学習集団を育成する。